国立大学法人
大阪教育大学

高度教職開発系　水野治久・梅川康治・糸井川孝之・佐々木　靖

ウイズコロナ時代における小中学校教員の学級経営におけるニーズと情緒的消耗感との関連
—若手教員を対象として—

背　景

✓2020年3月からコロナウイルス感染症による休業措置。5月から分散登校，6月から学校再開（Sato, 2020)。
✓休業措置は援助資源へのアクセス制限（Lee, 2020)，学校再開も児童への影響が大きい（松浦，2020）。

リサーチクエッション

✓ウイズコロナ時代における若手教員の学級経営のニーズと彼らの情緒的消耗感（バーンアウト）の関連を明らかにする。

方　法

2021年3月に若手小学校教員244名・中学校教員111名を対象としたオンライン調査を実施

株式会社クロスマーケティング及び株式会社ラインマーケティングによる実施

結　果

①教員の子ども指導に対するニーズ尺度

教員の子ども指導に対するニーズ尺度は学習活動，問題行動，家庭環境の3因子が抽出された。

表１ ウイズコロナ時代の教員の子どもの指導に関するニーズ尺度の因子分析結果

	F1	F2	F3
学習活動　α=.883			
7 学級の中で，話を聞いて内容を理解できない子どもについて悩んでいる	.810	.059	−.148
9 学級の中で，「読むこと」に苦労している子どもについて悩んでいる	.763	−.125	.067
11 学級の中で，「書く」ことに苦労している子どもについて悩んでいる	.737	−.039	.078
10 学級の中で，「計算する」ことに苦労している子どもについて悩んでいる	.735	−.190	.102
8 学級の中で，学習を順序どおりに行えない子どもについて悩んでいる	.712	.035	−.004
5 学級の中で，教師の指示が理解できない子どもについて悩んでいる	.673	.210	−.108
12 学級の中で，持ち物がそろわない子どもについて悩んでいる	.517	−.056	.238
6 学級の中で，行動の切り替えが難しい子どもについて悩んでいる	.447	.389	−.034
問題行動　α＝.754			
2 学級の中で，物を壊したり投げたりする子どもについて悩んでいる	−.207	.773	.091
1 学級の中で，暴言を吐く子どもについて悩んでいる	−.092	.687	.098
4 学級の中で，離席する子どもについて悩んでいる	.074	.640	−.041
3 学級の中で，急に大きな声を出す，声が小さすぎる子どもについて悩んでいる	.268	.475	−.020
家庭環境　α=.777			
14 学級の中で，家での学習環境が整っていない子どもについて悩んでいる	.114	−.020	.801
13 学級の中で，家で十分にケアを受けていない子どもについて悩んでいる	−.030	.173	.690
因子間相関　第1因子		.44	.44
第2因子			.32

②情緒的消耗感（バーンアウト）尺度

表2 情緒的消耗感(バーンアウト)の因子分析結果

	F1
情緒的消耗感　α=.822	
4 最近，仕事のために心の余裕がなくなった，と感じたことがある	.787
5 最近，身体的にも，精神的にも疲れ果てた，と思ったことがある	.778
3 最近，出勤するのがイヤになって，家にいたい，と思ったことがある	.721
1 最近，こんな仕事もう辞めたい，と思ったことがある	.709
2　最近，1日の仕事を終え，「やっと終わった」，と感じたことがある	.467
抽出後の因子負荷量平方和（%）	49.347

想定どおり
1因子構造

③学校種による差

表3　教員の子ども指導に対するニーズ及び情緒的消耗感の学校種比較

		n	平均値	標準偏差	t 値
学習活動	小学校	244	29.742	6.835	3.616 **
	中学校	111	26.865	7.195	
問題行動	小学校	244	12.213	4.141	3.751 **
	中学校	111	10.477	3.813	
家庭環境	小学校	244	8.057	1.893	0.686
	中学校	111	7.910	1.847	
情緒的消耗感	小学校	244	17.324	4.927	−0.031
	中学校	111	17.342	5.772	

**p<.01

学習活動・問題行動は中学校より小学校教員のニーズが高い。

④教員の子ども指導に関するニーズや他の変数が教員の情緒的消耗感に影響するのか？

表4　教員の子どもの指導に関するニーズ尺度，性別，学校種，担任の有無，経験年数，居住地が情緒的消耗感に及ぼす影響

	標準偏回帰係数
学習活動	.168 **
問題行動	.118 *
家庭環境	.050
性別	.124 *
学校種	.079
学級担任の有無	.019
経験年数	−.075
居住地（東日本・西日本）	.031
R^2	.106 **

*p<.05,**p<.01

R^2は，低いものの，教員の「学習活動」，「問題行動」のニーズが教員の情緒的消耗感に正の影響。また性別も情緒的消耗感に影響を示し，女性の得点が高い可能性を示した。ウイズコロナ時代の若手教員については，学習面，問題行動で教育現場を支えていく必要性がある。

本研究は，令和2年度　系の研究活性化プロジェクトによる助成を受けました。また本研究は，大阪教育大学紀要第70巻に掲載予定です。査読いただきました先生方に感謝致します。